

InterBEE 2026 特別企画
INTER BEE **MOIP**
参加企業募集説明会

2026年6月30日

1. 企画概要（実施形式）
2. 開催趣旨および全体コンセプト
3. 今年度の3つの展示テーマ
4. 参加要件と募集カテゴリー
5. 参加費用・参加枠組みについて
6. 今後のスケジュール
7. 質疑応答（Q&A）
8. Media over IPコンソーシアムのご紹介

InterBEE 2026 特別企画

- 企画名：InterBEE MoIP (略称：BEEMO)
- 日時：2026年11月18日(水)～20日(金)
- 場所：幕張メッセ 入場無料（登録制）
- 企画運営（主催）：JEITA Media over IP コンソーシアム



■ 展示エリア【MoIPコンソーシアム企画】

■ セミナー・オプションブースエリア【JESA事務局】

ステージプレゼンテーション

INTER BEE MoIP エリア内のオープンステージで45分間のプレゼンを行うことができます。

金額	Inter BEE 2026 出展者：165,000円 (消費税込)
	Inter BEE 2026 非出展者：330,000円 (消費税込)

※申込先着順に希望枠を受け付けます。
 ※Inter BEE のWebsite および案内状でプログラムを公開。
 Website で聴講予約を受け付け、聴講者データは後日納品いたします。
 ※1社につき1日最大1枠を上限とします。
 ※収録およびアーカイブ配信のオプションサービス (有料) あり。

	11/18	11/19	11/20
10:30▶11:15	主催者企画		
11:30▶12:15	主催者企画		
13:00▶13:45	①	③	⑤
14:00▶14:45	主催者企画		
15:00▶15:45	②	④	⑥
16:00▶16:45	主催者企画		

オプションユニット

INTER BEE MoIP エリア内で個別展示を行いたい参加者向けのオプションです。

展示ユニット：間口990mm × 高さ2,700mm × 奥行700mm

金額	Inter BEE 2026 出展者：165,000円 (消費税込)
	Inter BEE 2026 非出展者：220,000円 (消費税込)

※利用料に含まれる物：基本展示台、展示バック壁面、社名サイン、コンセント2口、電気供給工事費/電気使用料 (1kW)
 ※ブース位置は、事務局で決定します。
 ※展示内容はINTER BEE MoIP HUBIに関連する商材に限ります。
 ※当ユニットブースよりインターネット接続、および、実機接続デモとの接続を行う場合は、通常出展と同様、自社にてご手配をいただきます。



- 動態展示の実施
- Hotstage（事前検証環境）の実施
- セミナーエリア: エリア内に45分枠のセミナー会場を設け、リレーセミナーなどを実施します。※本年度は販売枠もあり
- オプションブースの設置
- よろず相談コーナー: ネットワーク設計やPTPなどの疑問に専門家がベンダーニュートラルな立場で答えるコーナーを設置。

⇒ 基本的にはIPPAVILIONの形式を踏襲



■ 全体統括：

小貝 肇 氏 (Media over IPコンソーシアム副会長 、 ソニーマーケティング)

■ 全体進行 調整：

佐久間 (Media over IPコンソーシアム 事務局 、 JEITA)

■ 企画リーダー：

企画① 企画② 長谷川 幹人 氏 (Zabbix JAPAN)

企画③ 中尾 誉 氏 (ソニーマーケティング) インフラ：桑原 世輝 氏 (NTTドコモビジネス)

■ パンフレット作製等 (各テーマから情報を集約)：MoIPコンソーシアム 普及広報WG

■ 最先端技術の発信と、市場の「多様化」への対応

- 近年のIP PAVILIONが牽引してきた「ハイブリッドクラウド」や「ソフトウェア化」といった最先端技術の動態展示は、引き続き本企画のコアとして強かに推進
- 設備更新を控えた放送事業者が多い中、「これからIP化を始めるユーザー」や「実運用フェーズに向けた費用対効果を模索するユーザー」等IP化について様々なレベル感で関心を持っている放送事業者が増えている。こうした多様なフェーズに包括的に応えるための枠組みへとアップデート

■ 「3つの目線（テーマ）」による、ターゲットに刺さる展示構成

- 全体を一つの大きなシステムとして見せる形から、今年は3つの独立したテーマで構成
- テーマを明確化することで、ベンダーも放送事業者も参加しやすく、来場者は自社の課題（現在地）に合わせて視察が出来る

■ ベンダーとユーザーが共に創り上げる「共創・実践の場」

- リモートプロダクション実証などを通じ、ベンダーとユーザーが一体となって「実際の運用現場での確かな価値」を創出・提示する場を構築

InterBEE MoIP（BEEMO）は、MoIP技術の導入フェーズやステークホルダーの異なるニーズに包括的に応えるため、全体を以下の「3つの目線（大枠）」で構成し、MoIPの土台から現在、そして未来までを立体的に提示します。

■ 企画①【機器接続検証】：IP化の土台づくり

- IP製品の裾野が広がる中で、機材の基礎的な相互接続に立ち返り、導入のハードルを下げるための検証の場

■ 企画②【放送事業者目線】：現在のMoIP（ハンズオン要素あり）

- 実際のリモプロ映像素材を活用し、放送局の視点に立ったリアルな運用リファレンスを構築
- 単なる完成システムの展示や見学にとどまらず、参加する放送局のエンジニアが実際にシステムの構築や運用に自ら関わりながら学ぶ「ハンズオンの拡大版」として展開

■ 企画③【ベンダー目線】：MoIPの先の未来（イノベーションの発信）

- ベンダーの視点から、クラウドやソフトウェア化など、自社の最先端技術と次世代のアーキテクチャを業界へ大々的にアピールする場

次ページより、各企画の詳細を説明

目的・背景：

- 市場にIP対応製品が急増する中、あえて原点に立ち返り「基本的な相互接続検証」を実施します
- 業界全体の裾野を広げるため、新規参入メーカーや既存メーカーの新製品の相互接続検証を行い、導入初期段階のユーザーに対し「手軽に導入出来るMoIP」をアピールします
- 事前に審査必須

実施形式：

- ベンダー（MoIPコンソーシアム会員）限定のクローズドな実証検証として実施
- ※放送事業者（ユーザー）は不参加の形式とします

成果発表：

- 参加ベンダー各社からのレポート形式にて、コンソーシアム内へ検証結果を共有

体制：

- リーダー：長谷川氏（Zabbix）

■ 目的・背景：

- SDIからIPへの移行における「現実的な課題解決」と「運用の信頼性」の実証を行います。また、ベンダーとの共創を通じた実践的な「人材育成」の場を提供します。

■ 展示・検証内容：

- リアルな制作環境の再現：実際のスポーツ中継等の現場を想定した実運用素材を活用し、データセンターへ集約するリモートプロダクション環境を構築します。

■ 目的に合わせた「2つの放送事業者参加枠」:

- 構築・運用メンバー枠（コア層向け）：ベンダーと共に、実際に「一作業員」としてシステム構築やオペレーションに深く関わり、IP化の本格的な経験値を積むための実践的ハンズオン（人材育成）枠です。
- 制作・体験メンバー枠（ライト層向け）：「出来上がったシステムに触りたい」「IPでの運用を学習したい」という制作担当者等に向けた、事前の操作体験や機能学習を主目的としたライトな参加枠です。

■ 体制：

- リーダー：長谷川氏（Zabbix） / ユーザー：津高氏（朝日放送テレビ）

■ 目的・背景：

- 【ベンダー目線】での最新技術ショーケースとして、海外のトレンドと同様に、パブリッククラウドとプライベートクラウドを兼ねた「ハイブリッドクラウド構想」を構築・提示します

■ 展示・検証内容：

- 専用ハードウェアの制約から解放された未来の映像制作環境を構築します
- 対応製品が増加しているMXL（Media eXchange Layer）などの最新トレンドを積極的に組み込みます

■ 訴求ポイント：

- MoIP導入の「その先にある未来」のシステム像を提示し、最先端技術を牽引するベンダー各社のイノベーションを業界内外へ発信します

■ 体制：

- リーダー：中尾氏（ソニーマーケティング） / インフラ担当：桑原氏（NTTドコモビジネス）

動態展示参加費

企画・運営（主催）：JEITA MoIPコンソーシアム

MoIPコンソーシアム会員	Inter BEE 2026 出展者：198,000円（消費税込）
	Inter BEE 2026 非出展者：605,000円（消費税込）
MoIPコンソーシアム非会員	Inter BEE 2026 出展者：308,000円（消費税込）
	Inter BEE 2026 非出展者：715,000円（消費税込）

※MoIPコンソーシアム非会員料金にはMoIPコンソーシアムへの半期お試し参加権が含まれます。

● 付帯オプション

◇ 「機材・UI一式」を2セットまで展示いただける権利

◇ Inter BEE 公式 Website や、幕張メッセ内パビリオンでの企業ロゴの掲出

◇ Inter BEE オンライン出展者ページの提供

※「機材・UI一式」3セット目以降の展示につきましては、1セット追加ごとに44,000円（税込）の追加料金にてお申込みいただけます。

1. 考え方

放送事業者は、MoIPの実用化に向けた「共同実証パートナー」として位置づけ、原則として「**特別参加枠（参加費無料）**」を適用します。ただし、本枠はベンダーとユーザー企業が対等な立場で新たなワークフローを「共創」するための枠組みであるため、主体的な参画として以下のご協力を必須条件とさせていただきます。

2. 無料参加（特別参加枠）の必須条件

参加費免除の対価として、以下の「リソース提供・運営協力」のいずれか、または両方を必須条件とします。

- **人的リソースの提供**： 会期中のブース対応（各種説明員、オペレーター等）への自社エンジニアの派遣。
- **企画・実証への貢献物の提供**： 動態展示の成立や価値向上に寄与する、何らかのリソース（運用に関する知見やノウハウ、検証用素材など）の提供。

3. 有料（通常課金）となるケース

放送事業者であっても、パビリオンの場を利用して「将来的な収益化サービスのPRまたは実証を行いたい場合」は、特例を適用せず、規定の参加費用（会員またはInterBEE出展者料金）を請求します。

※自社の放送インフラ改善を目的とした技術検証は「無料枠」の対象ですが、対外的なビジネス創出・販売を目的とした展示・PoCを行う場合は有料となります。


4. 申込方法： 申込用紙に参加費用未記載で必要事項記入の上お申込みください。

- 出展申込期限: 7月24日（金）までに延長いたしました。
- キックオフミーティング: 8月5日(水) 13:00～15:00
- Hotstage（事前検証・接続）: 11月2日（月）～11月13日（金）の期間（撤去含む）※期間は現状想定 残置27日まで
- 幕張メッセ搬入・準備：11月15日より現地でのセットアップを開始予定
- Inter BEE 本番: 11月18日（水）～20日（金）

- 出展申込書・契約書をご記入の上、<https://www.inter-bee.com/ja/forexhibitors/conference/moip/>よりお申込みください。

出展申込方法

以下より「出展申込書・契約書」をダウンロードして、お申込みください。

[出展のご案内・出展申込書 \(1.3MB\)](#) 

以下のオンライン申し込みフォームよりお申込み頂けます。

お申込みはこちら



- 参加企業によるプレスリリースの取り扱い
- 人員確保について

Media over IPコンソーシアム 活動紹介

「Media Over IP コンソーシアム」とは、効率的な次世代のコンテンツ制作と持続可能な制作環境を実現し、我が国の放送技術の発展を目指すために、**放送事業者・放送機器メーカー・SIer**等が協創する、**新たな枠組み**です。



課題

従来の放送設備の検討・運用に携わっている方々が、MoIPのシステムを導入する際、異なるテクノロジーで、高い信頼性と可用性を持つシステムの検討・運用をしなければならず、システム導入時の課題となっている。



放送事業者・機器メーカー・SIer・ITベンダ・キャリアの協創によりMoIPの普及・発展に貢献

- ① MoIPプラットフォームの提案（含むセキュリティ関連）
- ② 国際標準規格に準拠した機器のテスト・マルチベンダー間による機器相互接続検証
- ③ コンテンツ制作のプロセスイノベーションに資するワークフローの提案
- ④ 関連技術セミナーなどによるIP人材育成：放送技術者向けIP技術取得セミナーなど
- ⑤ 活動成果や集約化されたMedia over IP情報などを会員へ発信、外部へのPR活動など

役員

会長：奥田 晋 氏（株式会社TBSホールディングス CTO / 株式会社TBSテレビ 常務取締役）
副会長：小貝 肇 氏（ソニーマーケティング株式会社 B2Bビジネス部 統括部長）
監事：濱崎 理佳 氏（日本電気株式会社 メディア統括部長）

設立幹事会社（11社）



株式会社TBSホールディングス / 日本テレビホールディングス株式会社
株式会社フジ・メディア・ホールディングス



ソニーマーケティング株式会社 / 池上通信機株式会社 / 日本電気株式会社
パナソニックコネクト株式会社 / リーダー電子株式会社
Zabbix Japan LLC



東京エレクトロン デバイス株式会社 / ネットワンシステムズ株式会社

客員

経済産業省 情報産業課 / 総務省 放送技術課 / 日本放送協会 技術局

4. 会員一覧 (6/12 時点)

※順不同、合計64社

INTER BEE **MoIP**



MediaoverIP
CONSORTIUM

放送事業者 (計23社)

1. 株式会社TBSホールディングス
2. 日本テレビホールディングス株式会社
3. 株式会社フジ・メディア・ホールディングス
4. RKB毎日放送株式会社
5. 朝日放送グループホールディングス株式会社
6. イッツ・コミュニケーションズ株式会社
7. 株式会社NHKテクノロジーズ
8. 株式会社MBSメディアホールディングス
9. 関西テレビ放送株式会社
10. JCOM株式会社
11. スカパーJSAT株式会社
12. 中部日本放送株式会社
13. 株式会社テレビ朝日
14. テレビ大阪株式会社
15. 株式会社テレビ東京ホールディングス
16. 株式会社テレビ西日本
17. 株式会社福島中央テレビ
18. 北海道放送株式会社
19. 読売中京FSホールディングス株式会社
20. 株式会社radiko
21. 株式会社WOWOW
22. 株式会社テレビ北海道
23. スターキャット株式会社

機器ベンダー (計30社)

24. 池上通信機株式会社
25. ソニーマーケティング株式会社
26. 東京エレクトロデバイス株式会社
27. 日本電気株式会社 (NEC)
28. ネットワンシステムズ株式会社
29. パナソニック コネクト株式会社
30. リーダー電子株式会社
31. エイチ・シー・ネットワークス株式会社
32. NTTイノベティブデバイス株式会
33. カナレ電気株式会社
34. カルネックスソリューションズPLC
35. キヤノン株式会社
36. 株式会社コムワース
37. セイコーエプソン株式会社
38. 株式会社タムラ製作所
39. ティアック株式会社
40. 株式会社東芝
41. 株式会社アンバーサイン
42. 株式会社東陽テクニカ
43. 華為技術日本株式会社 (Huawei)
44. 株式会社フォトロン
45. 株式会社ラムダシステムズ
46. 株式会社朋栄

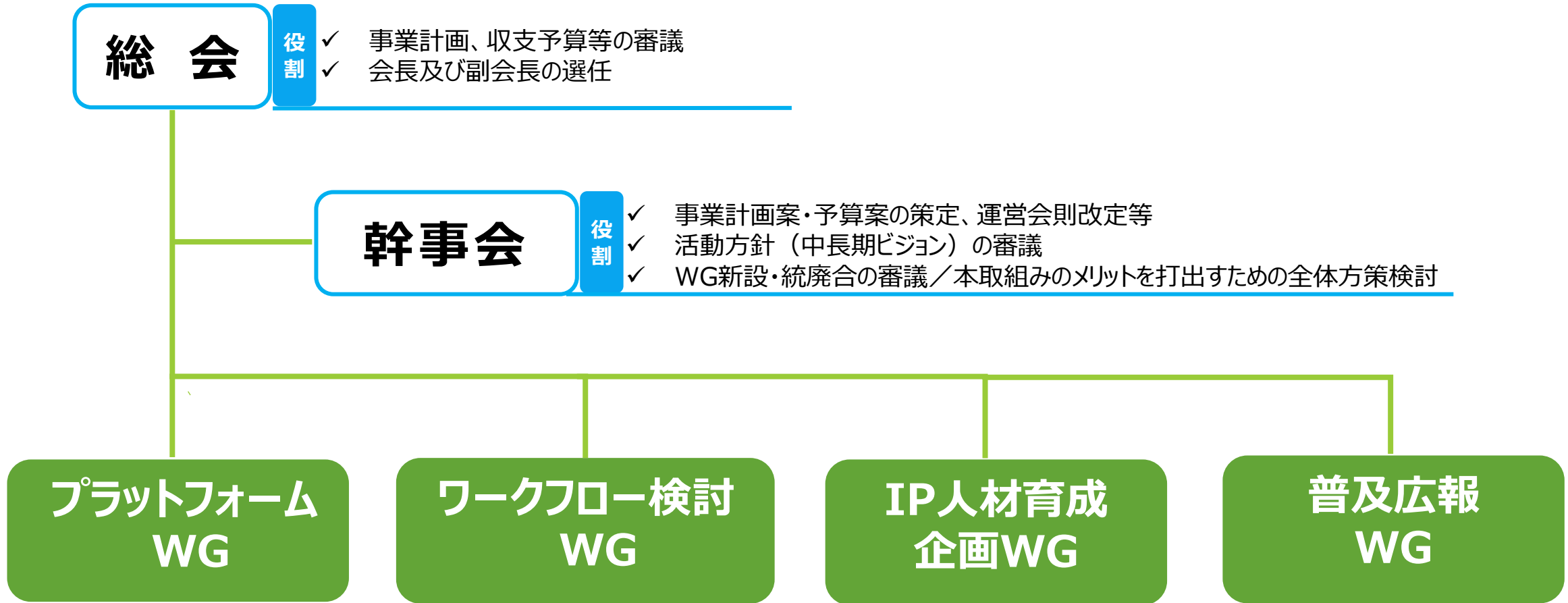
通信キャリア (計7社)

55. 株式会社インターネットイニシアティブ
56. NTTドコモビジネス株式会社
57. NTT西日本株式会社
58. 株式会社オプテージ
59. KDDI株式会社
60. NTT東日本株式会社
61. 輝日株式会社

ソフトウェア・ITソリューション (計4社)

62. Zabbix Japan LLC
63. 株式会社インテリジェントウェイブ
64. 株式会社ニッポンダイナミックシステムズ
65. 日本オラクル株式会社

47. 株式会社マクニカ
48. 丸文株式会社
49. 株式会社メディアリンクス
50. 株式会社メディアリンクスエルエスアイラボ
51. ヤマハ株式会社
52. ブラックマジックデザイン株式会社
53. オタリテック株式会社
54. トラスト株式会社



※現在想定するWGテーマ案に加え、参加企業からの要望に応じてWGやプロジェクトの立ち上げを随時検討します。

コンソーシアムについては3年で活動の見直しを行います。

■ 情報収集

- MoIPに関連する情報を収集できる
- MoIP制作システムに必要な要件をWG内で検討、議論することができる
- 系列を超えた他放送局の取り組み、事例情報を収集できる

■ 人材育成

- MoIPに関連するセミナーに参加できる
- 学びたいことが学べる（企画検討から）

■ 人的交流

- MoIPに関連する放送局、メーカー、ベンダー、通信事業者、クラウド事業者などと繋がることできる

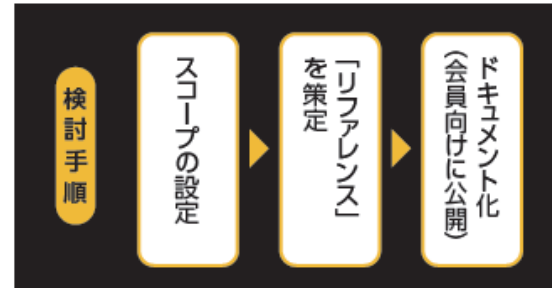
7. 各WG活動紹介：プラットフォームWG

プラットフォームWG

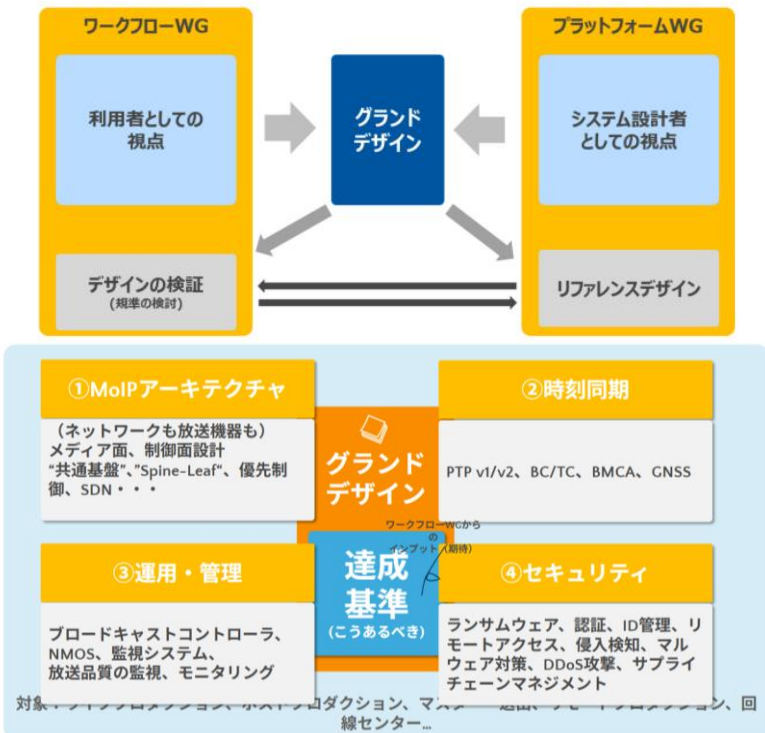
コンテンツ制作の様々な場面を想定し、適用可能な
放送システムのリファレンスモデルを策定

参加する事で得られる効果

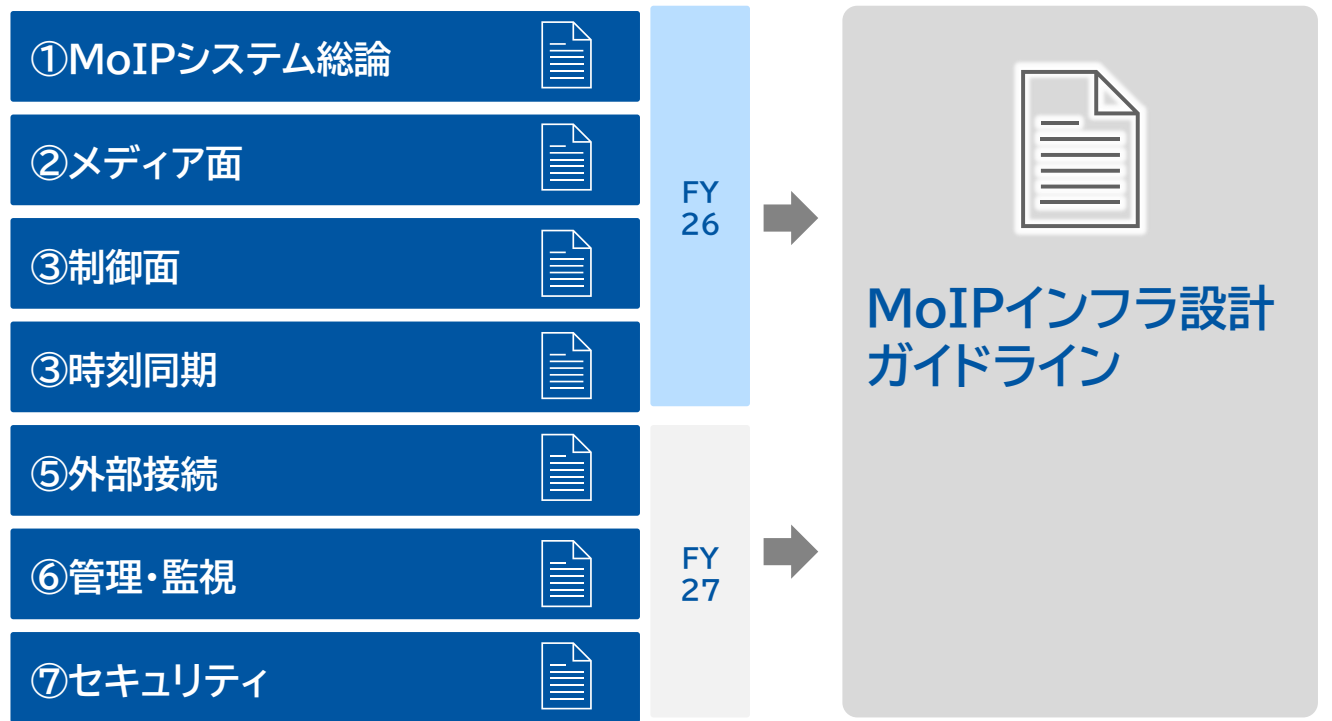
ユーザー・メーカーによる共通のリファレンスモデルの策定により円滑な MoIP 設備導入を推進



FY25 ニーズ把握と検討カテゴリの決定



FY26～ 知見を集約しリファレンスとなる資料の作成へ



MoIPインフラ設計
ガイドライン

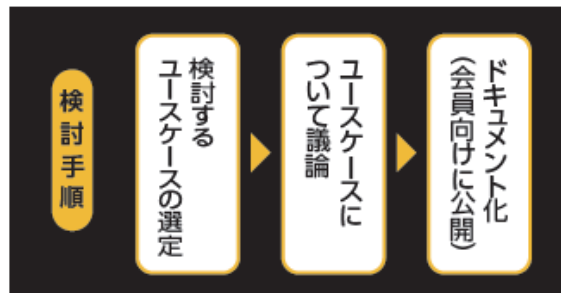
7. 各WG活動紹介：ワークフローWG

ワークフロー検討WG

ユーザーとベンダーの枠にとらわれることなく、MoIP時代に最適なコンテンツ制作の高度化を支援

参加する事で得られる効果

ワークフローのIP化・最新技術の活用により、持続可能な業務フローを実現



現状を把握し、スケジュールを想定した上で、MoIP導入の問題・課題を見つけます。

現状把握

現在の放送業界におけるMoIP導入の実態を調査。ワークフロー分析に向けた足掛かりとする。

アンケート実施

スケジュール感の確認

MoIPへの設備更新のスケジュール感を把握。それに合わせた製品開発とサービスのローンチを促す。

業界の位相合わせ

問題の共有

MoIPの導入の障壁となっている問題の明確化。対策を計画し、有効な施策を模索。

問題解決へ

2025年度活動実績	時間	内容	備考
5/27 (火)	15:00~	キックオフ・目的共有 ・参加企業自己紹介、WG目的説明 ・GD：プロジェクトの目的・目標 ・GD：MoIP導入後の課題について	
6/27 (金)	15:00~	情報共有イベント「NABLEレポート」 ・課題抽出・集約(1/2)	合同WG
7/28 (月)	15:00~	テーマ検討(1) ・テーマ：「MoIPの育て方」(グループ意見交換) ・MoIP入門講座の案内	
8/29 (金)	15:00~	情報共有イベント	合同WG
9/25 (木)	15:00~	テーマ検討(2) ・テーマ：「MoIPの育て方」(グループ意見交換)	
10/24 (金)	15:00~	講演：MoIP化によって変わった事 (講師：静岡第一テレビ 中濱様 / ミヤギテレビ 目黒様)	合同WG
12/22 (月)	15:00~	最新事例・技術紹介 ・TBS：「世界陸上」での取り組み ・NTT：MoIP普及拡大に向けたIOWN技術のご紹介	
1/28 (水)	15:00~	実証実験報告・AI活用議論 ・MBS：「全国高校ラグビー」IOWN/APN活用事例 ・フoton/EVS：「Extra Motion」技術詳細と新機能 ・GD：「放送現場におけるAI活用」(障害検知、自動SW等)	

■ 6月度開催

- ・MoIP海外事情 北米編 <映像新聞 論説委員 杉沼 浩司 様>
- ・MoIPアンケート報告+パネルディスカッション

■ 8月度開催

- ・市場情報共有 EUの状況について
- ・MoIP座談会 ～放送機器メーカーのキモチ

■ 10月度開催

- ・講演テーマ 「MoIP化で“変わったこと”
- 株式会社 宮城テレビ放送 目黒 様
株式会社 静岡第一テレビ 中濱 様

7. 各WG活動紹介：IP人材育成企画WG

IP人材育成企画WG

IP技術に関しシステム導入や運用管理の知識と応用までスキルや能力向上を提供
通年での体系的な MoIP 技術の習得セミナーの開催

カリキュラム案	IP 基礎	MoIP 技術	運用管理
	<ul style="list-style-type: none"> ● Ethernet ● TCP/IP、UDP ● VLAN、STP ● MAC Address ● ARP 	<ul style="list-style-type: none"> ● IP Routing ● Static Route ● OSPF ● LLDP 	<ul style="list-style-type: none"> ● Multicast (IGMP、PIM) ● PTP ● 標準規格 (SMPTE、MOS) ● SNMP ● Telemetry ● DNS ● DHCP ● 監視手法

この他要望・予算に応じてセミナーを
随時企画予定

- ▶ IP 基礎講座①
- ▶ MoIP 基礎講座①
- ▶ MoIP 基礎講座②
- ▶ 運用管理講座①
- ▶ 運用管理講座②
- ▶ 放送局導入事例
- ▶ RFP 書き方講座

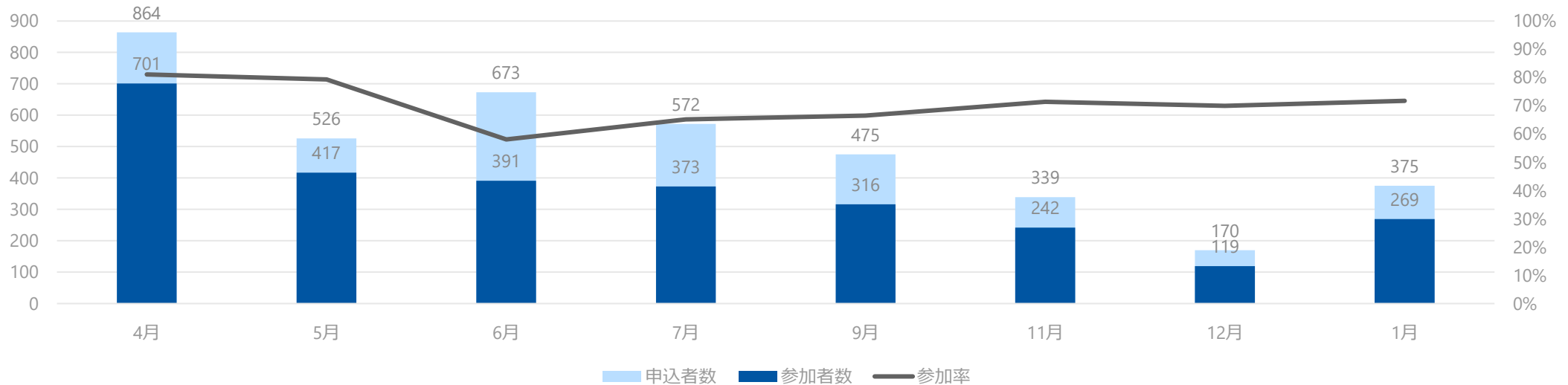
2025年度 セミナー年間スケジュール

参加費無料
会員企業 人数無制限

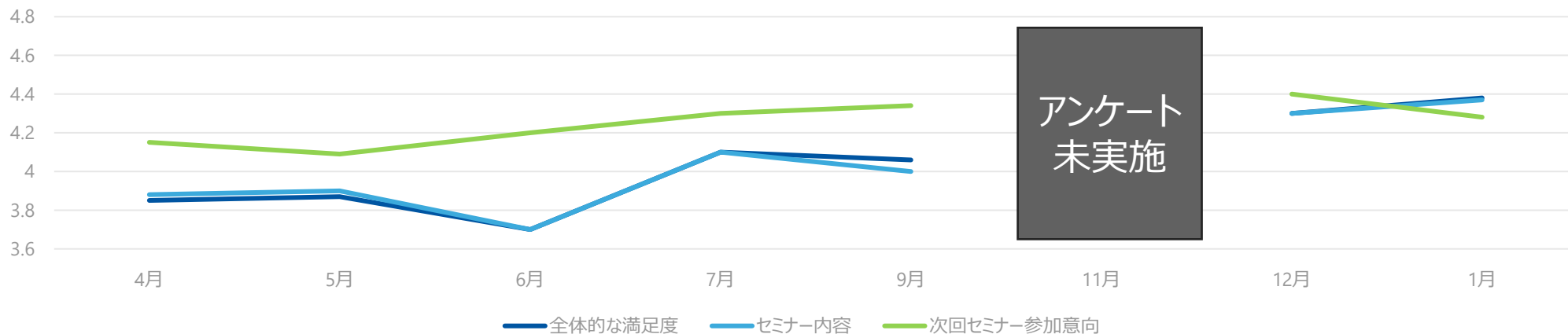


7. これまでのセミナー実績

オンラインセミナー参加者数推移



アンケート回答の平均値(5段階評価)



7. MoIP技術習得ロードマップ

●【STEP 0】視点を切り替えるための基礎認識

🎯 目的

- 「なぜ今IPなのか」を理解し、IP/MoIPを“自分ごと”として捉える

✅ 学習項目

内容	解説
放送業界におけるIP化の背景	SDIルータの終息、グローバル動向、働き方の変化（リモート制作・クラウド）
MoIP導入の主なメリット	スケラビリティ・運用効率・設備集約・コスト最適化
SDIとIPの違い（概念）	フレーム転送 vs パケット転送、クロック供給 vs PTP同期、単一信号 vs マルチキャスト通信

●【STEP 2】放送用IP伝送技術（MoIP）基礎の理解

🎯 目的

- MoIPにおける映像・音声・制御信号の取り扱い方法を知る

✅ 学習項目

項目	内容
SMPTE ST 2110	-10: パケット化、-20: 映像、-30: 音声、-40: 補助データ
ST 2022-6 / -7	エッセンスのTS伝送、冗長性確保（ヒットレス切替）
NMOS IS-04/05	デバイスの自動検出、コネクション管理
マルチキャストの基礎	IGMP、PIM、SSM/ASM、IGMPスヌーピングの動作確認
PTP（ST 2059）	同期の重要性、グランドマスター／スレーブ構成、BMCA
DANTEとの違い	PTPv1 vs PTPv2、用途、同時運用時の注意点

●【STEP 4】運用・トラブルシュートスキル

🎯 目的

- トラブル時の判断・復旧・事後対策ができる実践力の習得

✅ 学習項目

項目	内容
よくあるMoIP障害	PTPドリップ・IGMPテール不整合・帯域オーバー・QoSミス
調査方法	ping、tcpdump、Wireshark、機器のログ収集方法
冗長性の検証	ST2022-7の切替テスト、PTPのフェイルオーバー試験
運用監視設計	SNMP/Zabbix導入、ログ集約サーバ設計（syslog）
デバイス監視	SFP温度、リンクステータス、PTP offsetなど



●【STEP 1】IPネットワーク基礎の習得（レイヤ2/3）

🎯 目的

- 機器がつながる仕組みを理解し、IPネットワークにおける基本動作を把握する

✅ 学習項目（座学・ハンズオン）

分野	内容
IP基礎	IPアドレス・サブネット・デフォルトゲートウェイ・MACアドレス
VLAN	VLAN分割、タグ付き/非タグ付き、802.1Q
ルーティング基礎	静的ルーティング／OSPF概要、L2とL3の違い
スイッチの基本構成	ポート種別（アクセスポート／トランク）、ポートミラー
ネットワーク監視基礎	ping、traceroute、arp、MACテーブル確認などの基本コマンド
障害パターン	VLANミス設定／MAC学習漏れなどの初歩トラブル事例

●【STEP 3】構築・設計フェーズの実践スキル獲得

🎯 目的

- 実際の放送ネットワークを安全・確実に構築・検証できる力をつける

✅ 学習項目

分野	内容
ネットワーク設計	スバイン・リフ構成、VLAN設計、QoS（優先度制御）、帯域設計
PTP設計	BMCAの優先順位、PTPドメイン、2系統冗長化の要点
検証手法	トラフィック発生ツール（iperf等）による負荷試験、映像遅延計測方法
実装	MoIP構成例（スタジオ単体、中継車、リモプロ構成など）
セキュリティ	制御用LANの分離、ACL、外部アクセス対策、Zabbix/SNMP監視構成

⚙️【STEP 5】応用編・拡張知識（リーダー／設計者向け）

🎯 目的

- 組織の中でIP化推進や設計責任者を担える水準へ

✅ 学習項目

項目	内容
経費判断材料の提供	IP化のROI／TCO算出、SDI設備との比較（コスト／冗長性）
ベンダー管理	機器調達、仕様書レビュー、RFP作成スキル
制御系連携	Ember+、NMOS IS-06/07、SDN制御連携
新技術の理解	IPMX、AVoIP、クラウドベースメディア処理
組織教育	社内IPスキルマップ作成／教育体系設計

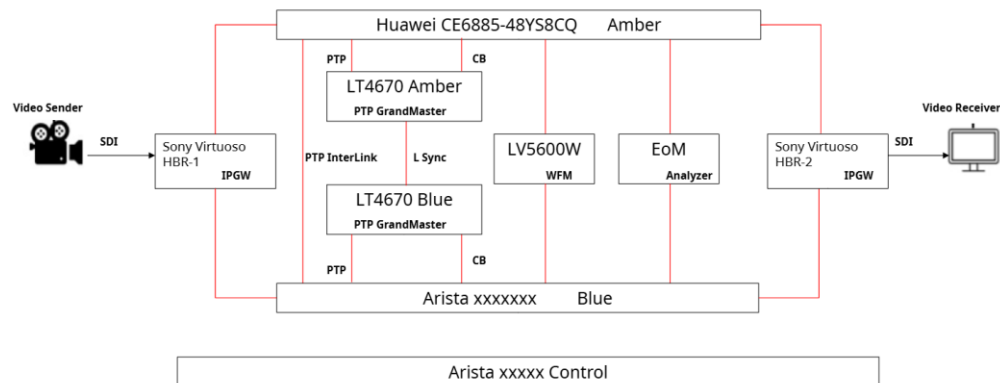
7. ハンズオンセミナー開催報告

■ ハンズオンセミナー

1回で5名程度の参加者で3時間の枠で午前枠と午後枠で2回実施。
一連の流れを参加者メンバー同士が協力して挑戦する。

- 設計
- 接続
- 設定
- 動作確認
- トラブルシューティング

開催実績：2025年9月東京開催 受講者 11名
2025年12月名古屋開催 21名
2026年2月大阪開催 受講者 99名(セミナー重複あり)



7. 各WG活動紹介：普及広報WG

会員の交流促進・会員増強

会員向け活動成果や集約化したMedia over IP情報の周知

- Media Over IP の普及に向けたホームページ作成等
- 地域放送局への活動の周知
- その他、市場創出に関する活動
- 会員交流の機会創出

参加委員 ユーザー（放送局・プロダクション）、MoIP 技術関連メーカー・ベンダー

IP に関する情報の集約化、実機に触れることが出来る機会の提供、会員交流の機会

- MoIP普及イベント@東日本放送
- MoIPコンソーシアムAI育成
- MoIPカオスマップ
- カプセルトイ企画

- 1社1つ以上のWGに参加すること（会則に記載）
- WG開催形式は対面＋オンラインのハイブリッド形式
- WGミーティング参加は任意（ミーティングメモ、録画データは事後共有）
- WGでの検討議題は、各WGで設定
- 登録委員は各社複数人可能

(会員区分／年会費)

本コンソーシアムの目的及び事業に賛同する企業及び団体等を会員とする。
会員は、以下のとおりとする。

(1) 正会員 ※年会費：20万円（税込み） ※半期割あり

以下を満たす企業

- ①本コンソーシアムの事業の推進に協力する企業
- ② (2)客員（関係団体・研究機関他）以外の企業

(2) 客員（関係団体・研究機関他）

本コンソーシアムがその目的を達成するために必要な、協力を求める公的機関および団体、研究機関、その他の団体等

※入会金なし

※会社法上の子会社は入会企業の権限で参加可能

STEP 1

Media Over IPコンソーシアム
ホームページへアクセス

STEP 2

Media Over IPコンソーシアム ホームページ
入会お申込みフォームにて必要事項を記入。
※この際参加希望のWGへの✓をお願いします。

STEP 3

Media Over IPコンソーシアム事務局より連絡窓口へWG委員登録票を送付。
必要事項を記入の上ご返送下さい。



◆ Media Over IPコンソーシアムに関するお問い合わせ、ご相談等は、以下の宛先までお願いします。

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 市場創生部

Media Over IPコンソーシアム事務局

所在地 : 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル

E-mail : mediaoverip@jeita.or.jp

本事業にご賛同いただける企業・団体様のご参加をお待ちしております。